「少年としてのイエス」（イエスキリストの生涯①）

ルカの福音書２章 41～52 節

福音書は、イエスキリストの誕生（降誕）のできごと、そしてその後はヨハネから洗礼を受けられて公生涯に入り十字架と復活にいたる、この二つのできごとについて詳しく記しており、その間の約 30 年についてはほとんど記していません。それは聖書の目的がイエスが救い主であることを私たちが信じるのに必要なことを伝えることにあるからです。その中でルカは少年時代のイエスの姿を記しています。ここにも人生の土台となる原則を見出すことができます。

① アブラハムの子孫

“さて、イエスの両親は、過越の祭りに毎年エルサレムに行っていた。イエスが十二歳になられたときも、両親は祭りの慣習にしたがって都へ上った。” 42

“そして三日後になって、イエスが宮で教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。聞いていた人たちはみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。” 46-47

“アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。アブラハムがイサクを生み、イサクがヤコブを生み、…エッサイがダビデ王を生んだ。…ヤコブがマリアの夫ヨセフを生んだ。キリストと呼ばれるイエスは、このマリアからお生まれになった。” ﾏﾀｲ 1:1-

② 神の子としての意識

“すると、イエスは両親に言われた。「どうしてわたしを捜されたのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当然であることを、ご存じなかったのですか。」” 49

“さて、イエスのところに母と兄弟たちが来たが、大勢の人のためにそばに近寄れなかった。それでイエスに、「母上と兄弟方が、お会いしたいと外に立っておられます」という知らせがあった。しかし、イエスはその人たちにこう答えられた。「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことばを聞いて行う人たちのことです。」” 8:19-

“「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。…” 14:26-

③ 人としての成長

“イエスは神と人とにいつくしまれ、知恵が増し加わり、背たけも伸びていった。” 52

〇話し合ってみましょう

・私はだれなのか、私は何のために生きているか。私たちはこのような人生の目的ということに対して、どのように具体的に生きていこうとしているでしょうか。